

たより



夏季休業中開催の研修講座報告7

栗原慎二先生の講座「誰もが行きたくなる学校を創る」

8月22日(水)、広島大学大学院の栗原慎二先生をお招きし、「誰もが行きたくなる学校を創る」と題してご講演いただきました。

冒頭で、栗原先生は「学級の状態と学力は大きな関わりがある。」「生徒指導をきちんとすれば半年で学校は変わる。学力も向上する。」と話されました。

では、具体的にどう行動すればよいのでしょうか。

栗原先生は、教員の視点を変え、現状を捉えた上で今の子どもをどう理解するかが大切だと話されます。

昔の子ども達は、屋外で異学年の子どもも交えて、多人数で身体を使って遊んでいたのに対し、今の子ども達は、屋内で同学年どうしが少人数で遊んでいる。これでは、対人関係スキルが身につかないと続けます。

また、子ども集団の崩壊と遊びの変質に加えて、家庭機能の低下、いじめや学級崩壊、社会からの要求の高度化等により、良質の人間関係をつくる体験が不足していると指摘します。「他者や社会への否定的感情、自尊感情・自己有用感の低さ、スキルの不足」が、「過剰な気づかい」「人格的もろさ」「ボーダー感覚の喪失」「非共感性」「攻撃的行動」につながり、それらが「不登校」「ひきこもり」「NEET」「青少年犯罪」等の現象となって表れているといいます。

「それではコミュニケーション能力を高めるには、どうすればいいでしょう。」

栗原先生が参加者に問いかけます。

「勉強ができるようになるには勉強をする、サッカーができるようになるにはサッカーをするのと同じように、コミュニケーション能力を高めるにはコミュニケーションを多く体験することが重要なんです。とにかく大事なのは、質より量。やっていくうちにうまくなる。」と、熱のある言葉できっぱりと話されました。

マイナスの体験についても、ある方がよいと話されます。マイナス体験が、それを上回る肯定的な人間関係の構築に繋がるということです。

栗原先生はさらに続けます。

「クラスで、誰にでも『おはよう』と言える子は、一体何人いるのでしょうか。」



参加者の皆さんは、子ども達の姿を一人ひとり思い浮かべながら、頷いています。中学生を対象に調査した結果では、向社会性のスキルの高い子どもは、勉強もできるし、友人もできるし、いじめられないし、楽しいと感じているという結果が出たということです。

最大の問題点は、集団から集合に変わってきたこと

今の最大の問題点は、子ども達が集団から集合に変わっていることだと先生は強調されます。「集合」の中には絆がなく、支え合いがありません。このことが、教育が難しくなった最大の原因であると言われます。これまで「スクールカウンセラー」「特別支援」「スクールソーシャルワーカー」など、様々な取り組みにより現状を支えてきてはいるものの、なかなかうまくいかないのだということです。

先生は、**生徒指導の本質は、集合を集団に変えることで解決する**と話をまとめました。生徒指導、授業づくり、学級づくり、学校づくり・・・全ての場面において意識して取り組むことで集合が集団に変わるということです。

さらに具体的に話が進みます。授業では、子ども達同士が交流するグループ活動の中で、互いの影響力が発揮できる授業、欲求の満たされる授業をしていくべきだと続けます。一部の子どもだけがヒーローになり、一部の子どもだけが楽しめる授業では、子ども達の意欲はどんどん落ちていくそうです。

意欲・欲求というのは、「交流欲求」「承認欲求」「影響力欲求」の順に満たされていくという特徴があるそうです。学級崩壊では、交流欲求のある子に個別に振り回される状態が見られ、問題行動が目立つ子どもを叱ることで、問題行動を継続・拡大させることになると言うのです。子ども達が普通の行動をとっている時に交流することが大事で、交流により欲求が満たされると、問題行動を起こす必要性がなくなるのだそうです。

また荒れた状況にある子どもへの指導・支援のポイントとして、発達的問題・養育上の問題・欲求を理解し、情緒的サポート（理解・傾聴・感情の交流・承認 etc）を提供すること、観察できちんとしたレスポンスを返すこと、コミュニケーション能力を育むこと、個々の学習ニーズに応じた学習課題を設定することが重要であるとまとめられました。

アンケートより（一部抜粋）

子どもが集合化しているという話が印象的でした。クラスの子もたちを集合から集団にしていくのが、教師の役割だと改めて感じました。社会的欲求を満たすような授業づくりに心がけ、問題行動を起こす生徒は交流欲求を満たしていきようにしたいと思いました。

ピアサポートや協同学習について、詳しく学びたいと思いました。

栗原先生の資料より（求められる生徒指導と教育相談）

（従来）	（これから）	（従来）	（これから）
・事後対応的	計画的	・担任中心	チーム、組織
・課題解決的	予防的・能力開発的	・教師中心	ピアの活用
・叱る、諦める	教える・諭す	・個別対応	プログラム

例： 川下で溺れてくる子を救う

上流で泳ぎ方を計画的に教える

諸富祥彦先生の講座「教師元気アップセミナー」

8月23日(木)、明治大学の諸富祥彦先生をお招きして、教職員メンタルヘルス講座を開催しました。グループワークを交えながら、ユーモアたっぷりにお話しされ、笑い声あふれる研修講座となりました。



精神疾患発生率といった教員のメンタルヘルスの現状、教師の4つの悩み(子どもとの人間関係、保護者との人間関係、同僚との人間関係、多忙感)とそれへの対応策などをお話いただきました。



教師は、精神的に追い詰められやすい職業であるという話から始まりました。そして、教師は、人間関係のプロでなければならないということ、学級経営・保護者対応のポイント、同僚と支え合える関係をつくるために「弱音が吐ける職員室」にすることの重要性などについて教えていただきました。

また、メンタルヘルスを保つために、簡単で効果的なストレス解消法も伝授していただきました。

アンケートより(一部抜粋)

ワークショップや具体的な対応策を交えた内容で、とても元気の出る研修でした。参加人数が多くても、みんなが一つになれた気がしました。みんなが支えあう職場をつくっていきたいと思いました。本当に有意義な内容でした。

何度も何度も大笑いをしました。笑いの中にも大事なことをたくさん教えていただきました。

諸富先生のお話が聞けるということで、楽しみにして参加しました。予想をはるかに上回る内容に驚きました。実践的でした。すばらしかったです。

研修が終わって、なんだか心がゆったりしました。9月からの一歩が踏み出せそうです。大変元気が出ました。ストレスを溜めないようにしていきたいです。子どもたちのために。そして、自分のために。

ユーモアの中にも直接役立てられることがたくさんあり、参加させてもらってよかったです。9月から、また頑張れそうな気がします。



食育研究会のご案内

11月22日(木) 伊勢市立有緝小学校 公開授業

『ありがとう いただきます!』(1年4組 授業者 榊原隆志 教諭)

『作ろう! 食べよう! 伊勢の米』(3年1組 授業者 大島加愛 教諭)

『探ろう! お米の魅力』(5年3組 授業者 松井真紀子 教諭)